

16 「ユニットケアへの取り組み」

社会福祉法人弘仁会 世古口緑

1 はじめに

当法人で平成2年より名張市にて特別養護老人ホームを運営しているが、平成15年に津市美里町（旧美里村）より特養建設の話を受託した。私も従来型特養での運営・サービス提供において自分なりの様々な想いを抱いていた。個室ユニット型特養の魅力も感じており、ご利用者にとって選択肢が増える事に意味があると考え、今までの経験と想いをユニットケアで新たな取り組みがしたいという考えが出てきた。小さい単位でサービスを提供する事で、ご利用者様の生活をより深く知り個別のサービスへと繋ぐことができその意義を感じていた。



2 個室ユニット型特養を開設にあたり

集団ケアから個別ケアへの移り変わりを感じ、できる限り個別ケアの実践を行ってきたが、従来型の特養ではハード的な面で個別化できない部分もあった。個室ユニット型特養の整備が現実化する中、在宅に近い環境で、利用者一人ひとりの個性や生活のリズムに沿ったサービス提供が重要であると感じた。



プライベートに配慮した個室



快適な空間を創造する共同

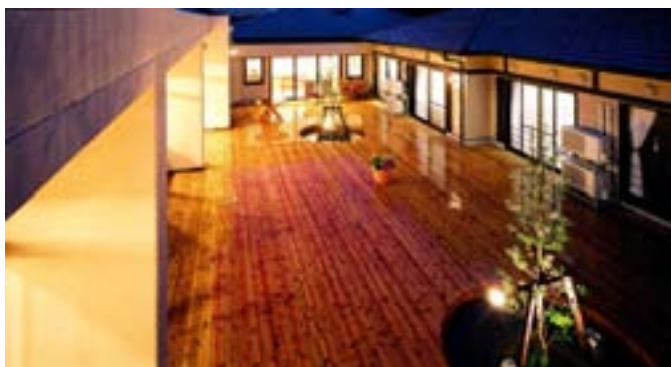


各ユニットに備えられたキッチン

3 ユニットケアへの想い

かつて、ニュージーランドで見た福祉施設では、いきいきとした生活が送れるよう幅広く選択出来る環境があった。タウンハウスのようなこじんまりした家から、庭付きの家、マンションのような近代的な住居、病院に近い医療設備の整った施設、全てが明るく、日々の生活のようにゆったりとしていた。様々の形態の施設が複合的に建ち並び、まるで1つの街のようであった。また、お庭もとても美しく、バラ園や季節の草花いっぱいのガーデニングが施され、入所されておられる方々が競うように自分のスペースの庭を手入れし、動ける方から歩行困難な方まで、自分達なりの生活ペースを掴み明るく生活されて居られた事が印象的であった。日本でも、このような施設作りがしたいと心からそう思った。私共の法人の理念である、私が入りたいと思う施設作りの実現において、ユニットケア・個別ケアの実践は、目標を達成するために重要な手段であると感じユニットケアの取り組みを行う事とした。

それぞれのユニットに隣接した庭付きの家をイメージしたオープンデッキ



4 どうして小グループ制が良いのか

利用者一人ひとりの個性や生活のリズムに沿ったサービスの提供を行うためには、一人ひとりのこれまでの人生の背景や生活スタイルを知る事により、その方の生活を可能なかぎり継続できるよう努めることが重要である。そのために、職員は個人を深く理解し、より多くの関わりを持つ事が必要とされる。小グループ制を取る事により、利用者一人ひとりの情報を深く理解をした上で関わりを持てる事で利用者個々のニーズに対応したケアを行う事ができ、職員と利用者のより深い信頼関係の構築が図れ、利用者一人ひとりへのサービスの質の向上に繋げていくことができる。



ユニット毎に建てられた7つの家



ユニット(10名)での小グループ制により個別のニーズへの対応



5 ソフトとハード

施設の整備においてコンセプトとした事は、入居する方が、施設において自分の家と感じていただけるよう、各ユニットの外観や内装をユニット毎に個性を持ったものとし、愛着を持てるように工夫をした。

また、ハード面での取り組みとしては、風呂場は開放感のある、露天風呂をイメージした大浴場で温泉気分を満喫していただくよう工夫した。プライベート空間でゆっくりと！と思われる方にも、明るく清潔感のある個浴の空間づくりに配慮した。

また、施設全体に間接照明を多く使い柔らかく、温かい落ち着ける雰囲気作りに努めた。居室をはじめどの場所も明るい部屋になるよう色合いにもこだわった。ご家族も来て頂きやすい明るい雰囲気の施設に出来上がったと思う。

パブリックスペースは3つに仕切れる工夫を施し、喫茶コーナー・健康ゾーン・図書ゾーンとして、それぞれ用途に合った活用が頂けるよう設計した。オープンにするとホールとしても活用頂ける。セミパブリックスペースも皆さんが自由に利用頂けるよう工夫している。また、オープンデッキで外の空気をあじわい、園芸等が出来るスペースを確保した。

ソフト面での取り組みとしては、法人理念である、職員一人ひとりが「私が入りたい」と思える施設作りと「私が利用したい」と思えるような在宅サービスを目指し、住まいの中に自分の居場所・落ち着けるスペースを持って頂けるよう配慮した。また、お一人

おひとりのこれまでの人生の背景と生活スタイルを知り、その方の生活を継続頂けるよう努めている。

職員と共に「自分が暮らしたい」と思える施設を考える時間を、研修等を通し持つよう取り組みを行っている。また、サービスの向上のため各種委員会を立ち上げ、サービス提供においての意思の統一や周知を行ったり、質の向上のため職員間で研修を実施している。また、仕事の枠を外して、職員同士が知識や技術の習得のために、自主的に勉強会を開催している。



ユニット毎に個性を持たせた建物の外観



外の空気を満喫できるオープンデッキ



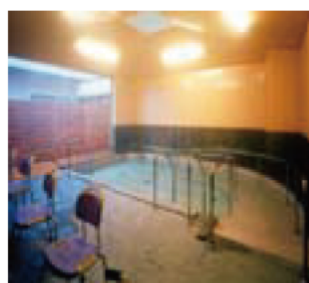
庭をイメージし、園芸等のスペースを確保



温かい雰囲気配慮した居室



喫茶や図書を楽しむパブリックスペース



露天風呂を演出した大浴場



個別のニーズに対応できる個浴

6 システムの構築

ユニットケアの導入に際して、法人理念である、職員一人ひとりが「私が入りたい」と思える施設作りと「私が利用したい」と思えるような在宅サービスを目指した施設運営を行うため、施設の運営方針の周知を行い、目標達成に向けたサービス体制の検討を実施した。

また、ユニットケアの理解を深めるため、既存のユニットケア実践施設へ出向し研修を行った。しかし、法人が考えるユニットケアの取り組みへの考え方をスタッフ全員が統一が不十分であったため、ユニット間でのサービス提供の質や人材の育成方法にばらつきが見られたため、スタッフ間でユニットケアへの理解を深めるための研修の実施やサービスの共有化を図るためのユニット会議の実施、新人スタッフへの指導についてのマニュアル作成等を行った。ユニットケアを行うにあたりハード的に十分な機能を備えた施設であっても、ユニットケアに融合するソフト面の構築ができなければユニットケアは行えません。スタッフが利用者の方をより深く理解し、互いに信頼し合える関係づくりを行えるシステム作りを行うことで、より深くニーズを把握でき、個別ケアの実践へと繋げていけると考えます。そしてその先に得られる利用者の笑顔こそが私達が本当に目指すべきものであると考えています。



ユニットの玄関（ひとつずつ職員の思いを込めて設置する。）



ユニット内リビング（食事をする場所とくつろぐ場所とを区分けする。）

7 取り組み

ユニットケア行い、ケアを行うグループを小規模化することによって、スタッフは利用者と馴染みの関係を築く事ができ、大きなグループでのケアに比べてより多くの個別情報を共有した中でサービスの提供を行うことができる。ユニットケアにおいては、このような利点を活かして、より多くの情報を活用して個別のニーズに対応していく事が望まれ、それらを達成することで、施設に入所後も在宅での生活スタイルの継続を行っていくことができると考えている。そのために、各ユニットに職員を固定配置し、複数のユニットを掛け持つことのないようにシフトを調整した。そのことで、ユニット内での意識がまとまり、目的意識を持ちやすくなった。

私達は、お一人おひとりのこれまでの人生の背景と生活スタイルを知り、これまでどのような人生を送ってこられたか、またどのような事に楽しみを持たれるのか等、その方自身を知る事に努めている。そこで認知症介護研究・研修東京センターの24Hシートの活用を行い、ご利用者のニーズの引き出しをご家族に協力いただき、施設で「どのように暮らしていきたいか」をもう一度確認している。これまでのケアプラン中心の課題解決中心の日課だけでは不十分であったが、最近ではいつ、どこで、どんな生活をしていきたいか等の意向を踏まえた関わりのもと、入居前の生活の継続が実現しつつあるように思う。

また、記録面においても、24時間軸に沿った暮らしぶりの記録を行っている。新しい記録様式を活用していく事で、スタッフ間で共有する内容が変化し、ケアプランもより暮らしに沿った内容に更新され、実際の介護とケアプランが連動している事がいっそう明確になった。

8 日課の排除～一斉介護から個別ケアへ～

これまでの既存施設では日課があり、食事や入浴の時間も決められ一斉介護が行われているケースが多くみられたが、これまでであった日課を排除し、一斉介護から個別ケアへの変革が求められる。個別ケアの実践を行うために、ひとりひとりの24Hシートに沿ったサービスを提供し、生活のリズムを尊重した利用者主体のサービスを考える事が重要である。

これまで一斉に介護が行われていた食事や排泄・入浴についても、可能な限り柔軟に入居前の生活リズムに合わせる事ができるよう、これまでの施設内の業務の流れ・仕組みを改善する必要があった。施設内の一貫した業務にご利用者の生活を当てはめていく流れから、ご利用者個々の24H軸の生活を合わせたスケジュールに対応していく業務に切り替える仕組み作りと、その指導に時間をかけている。

9 人材育成

施設開設前にユニットケアの理解を深めるため、既存のユニットケア実践施設へ出向し研修を行い、ユニットケアの概要について学び、介護の基本技術習得のため既存の従来型特養で実地研修を行った。

また、ユニットリーダー研修受講者によりスタッフへのユニットケア指導を実施し、ユニットケアをどのように進めていくかの意思統一を図った。しかしながら、開所当初は、ユニットケアへの取組みに個人差が生じていたり、各ユニット間での情報の共有が上手く出来なかったり等問題点が多かった。

人材の育成においても、ユニットの職員に委ねられる部分が多く、統一した人材の育成が行われていなかった。そこで、新人職員への研修のあり方を見直し、マニュアル・プログラムを作成することで統一した人材の育成が図れるように努めた。また、情報の

共有を行うための、ユニット会議の開催や申し送り、ミーティング見直し、サービスの向上のため各種委員会の立ち上げによる、意思の統一や周知、質の向上のためスタッフ間で研修等の実施により、ユニットケアに対する意識の向上が図れ、ユニット間の情報の共有等もスムーズになった。人材の育成においても皆が統一した見解で指導・助言ができるようになった。また、人事考課により職務能力の自己評価を行う事で、職務の振り返り及び目標設定が明確になった。



ユニットでの食事風景（より美味しく、より食事を楽しむ。食器も個人持ちや陶器の物やメラミン製と人それぞれを使用している。）

10 理念・情報の共有

施設の運営を行っていく上で、理念を共有する事は最も重要な要素である。全てのスタッフが理念に共感し理念に沿ったサービスの提供を行うことは、サービスの質を向上させる上で大きな力になる。理念を共有する事ができないと、サービスも異質なものになってしまう。

私たちは、常に全スタッフが共通の理念を抱けるよう、定期的に理念の再確認を行い、スタッフへの周知を行っている。理念を再確認することで、サービスの提供における自分の取組みが本当に正しいのかを再確認できる。また、情報を共有することも施設の適切な運営には欠かせないものである。施設の運営には、多職種の協働により成り立っている事を理解し、皆で情報を共有し統一したサービスを提供していくことが必要である。

11 ご家族との関わり

在宅生活の継続を行うことは、サービスの提供においてのみではなく、ご家族との関わりを継続していくことも生活環境を継続していくために重要である。施設での生活に対してご家族に関わりをもっていただくために施設行事の取り組みに参加を促し、ご家族と共に過ごす時間を増やして頂ける協力体制の確立に努めている。また利用者が落ち着ける環境で過ごせるようご家族に、その方に合った居室作りを提案していただく事で関わりを継続している。ご家族の支援を得る事でより深く利用者を理解できると共に、利用者が生活していく上で家族と関わりを持てる事への喜びにも繋がっている。

12 地域と施設

私達の法人は、予てより地域福祉の重要性を理解し、施設の運営を行っている。施設を拠点として地域全体で福祉課題の解決に取り組み、地域力を向上させていくため地域に貢献を行っていかねばならないと考える。

施設はボランティアの受入れや福祉教育を通して、常に地域と交流を図ると共に、施設を社会資源として地域に提供することで地域への貢献を行い、地域と連携を保つ事により地域での施設の役割について理解や支援を得ていかねばならない。また、地域の社会福祉の問題等に専門性を発揮し解決できるシステムの構築を図り、地域の福祉ネ

ネットワークの拠点になる必要があると考えている。

1.3 問題点・課題・介護の将来像

介護現場では慢性的に人材の不足と処遇の低さが問題である。サービスの質の向上を図るには優秀な人材を基準以上に配置する必要があるが、同時に人件費の割合が高くなり経営の圧迫がみられる。設備資金の借入返済も重なり大変資金的に緊迫しているのが現状である。しかし、介護現場が魅力ある職場となり、また同時に利用者にとっても素晴らしい場所になるように努めていかなければいけないと考えている。

1.4 終わりに

ユニットケアは個別ケアを進めていくための手段のひとつであり、利用者が限りなく生き生きとした生活を送れるよう、常にサービスの質の向上を目指していきたいと思う。ただ、「これで良い！」と思う事は永遠にないと思う。

一つ改善、また改善…。そんな繰り返しの日々ですが、今に満足するのではなく、試行錯誤を繰り返し一步一步前進していきたいと思う。当たり前前に過ごす中に、何か小さな気付きが隠れていると考える。ご利用者の方々の心地の良い暮らしの提供と、それに職員がやりがいを感じられるような良い流れを施設内に作る「仕掛け」が求められているように思う。

